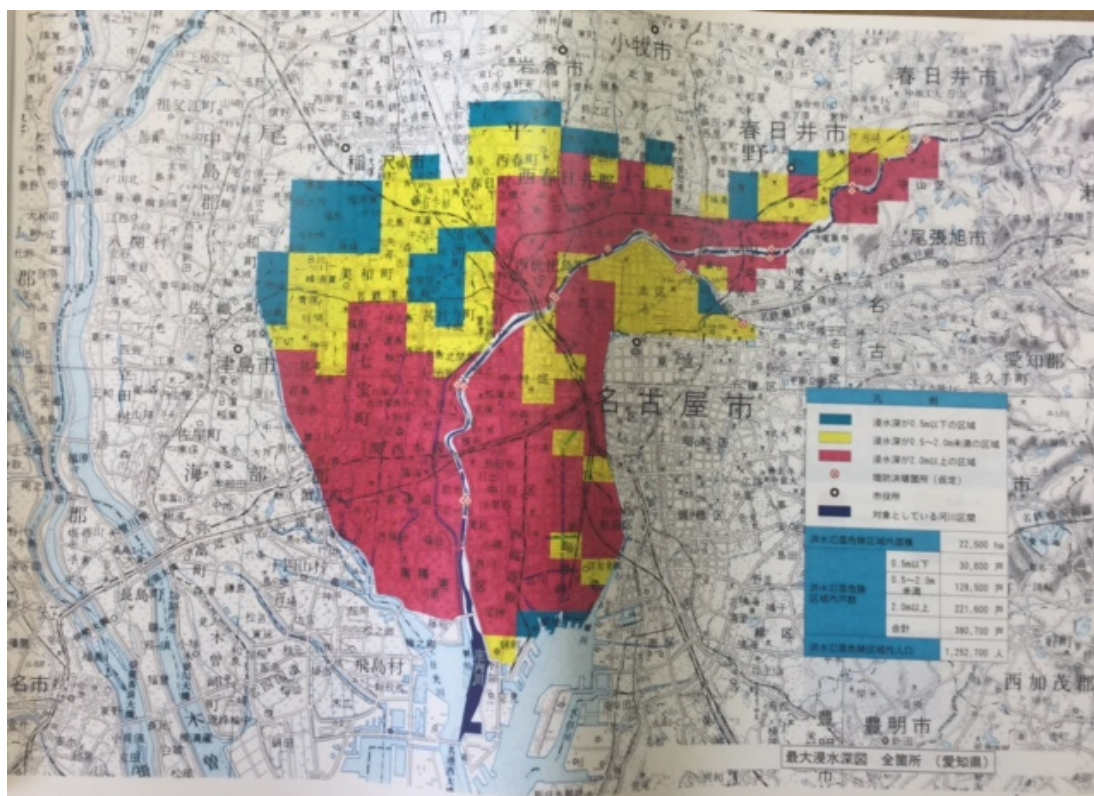


もし、庄内川が氾濫したら

表題と写真は、建設省庄内川工事事務所調査課が1999年に発行した資料である。副題は「庄内川洪水氾濫シミュレーション情報」となっている。かなり前に新聞で読んだ記憶はあるが、現物を見るのは初めてだった。仮定堤防決壊箇所が17設定され、洪水氾濫危険区域内面積、戸数、人口、浸水到達時間がそれぞれ示されている。

写真下は全箇所の最大浸水深図である。堤防決壊箇所、赤が浸水深2m以上の区域、黄が0.5~2mなどを表示する。全箇所の場合、洪水氾濫危険区域内面積2万2500ha、戸数38万700戸、人口125万2700人と想定している。この想定からも、被害の大きさがわかる。



最大浸水深図をみると、あらためて庄内川と名古屋南西部・北部との関わり、災害の脆弱性が見えてくる。とりわけ赤と黄の表示区域には、多くの人々が居住しており、中部最大のターミナル・名駅地区も含まれている。「もし、庄内川が氾濫したら……」名駅地区は？ 庄内川の災害と整備計画について、またレポートしていきたい。

(2016年2月10日)